

1 単元名 本はともだち (全12時間)

2 単元目標

○本を紹介する活動を通して、お気に入りの本を見つけたり進んで読書したりすることができる。

関心・意欲・態度	書く	読む
○本を楽しんで読み、大好きな本を見つけようとしている。 ○大好きな本の世界を宝箱の中に、こだわりを持ちながらつくろうとしている。	○宝箱を見合い、よいところを見つけて感想を伝えている。(Bオ)	○物語の好きな場面を探しながら読み、その様子を人物の行動や会話を基に想像する。(Cウ) ○物語の内容を自分の体験や読書経験と関わらせながら読み、本についての自分の思いを紹介する。(Cオ) ○楽しんだり知識を得たりするために、本を選んで読んでいる。(Cカ)

3 ひびき合う子どもたちをめざすための指導の工夫

低学年ブロックテーマ 「感じる心、素直に表現する自分」

- ・人の言動に何かを感じる姿
- ・自分の思いや、他者からの刺激に対し、素直に表現する姿

研究課題 「切実な問題意識を持ち、友だちと関わり合いながら学習する子どもの育成」

手立て…子どもの「切実な問題」を見とった単元構想と授業づくり

(1) 単元と指導

① 単元について

子どもたちは物語を読むことは好きであるが、内容を味わいながら読む力はまだ身につけていない。そこで本単元では、本に親しむ中で大好きな本と出会い、物語を楽しんだり味わって読んだりする力＝こだわる力を育てていきたいと考える。こだわる力とは、好きな場面や人物に対して具体的なわけを考えられることである。例えば「ずうっと、ずっと、大すきだよ」でいうと、子犬をもらわない場面を好きなわけが、「死んだあとも、エルフのことがずうっと大すきというぼくの気持ちが伝わるから」という風に考えられることである。行動面だけから考えた単純なわけ（かっこいい、かわいいなど）でなく、心情面にも目を向けていけるような具体的なわけである。そして、そのようなわけを抱きやすいのは、何度も読んだことのある「大好きな本」だと考える。

こだわる力を育てていくために、本単元では「大好きな本の宝箱をつくろう」という言語活動を設定していく。宝箱の中には本カード（本の説明、好きになったわけなどを書いたもの）があり、それをもとに本の中で自分の好きな人物や場面を貼り絵や工作したもので表現していく。大好きな本の世界を焦点化（場面を選ぶなどして）し、つくるといふ具体的な活動に取り組むことで、子どもたちはこだわりを持ちながら学習に取り組むことができると考える。

宝箱は二度つくっていく。一度目は、「ずうっと、ずっと、大すきだよ」で宝箱のつくり方、そして心情面にも目を向けた読みを経験していくためである。教材文「ずうっと、ずっと、大すきだよ」は、人間にとって身近な動物である犬と少年との心の交流を描いている。次第に老いていくエルフだが、それでもなお「ずうっと、大すきだよ。」という言葉がいつもささやく「ぼく」。愛犬エルフをその死に至るまで親友として愛し、慈しみ続ける中に、物語の温かさを感じるができる。これまで読んできた物語文は楽しく音読したり劇をしたりする内容のものが多かったが、本教材はぼくとエルフの心情の交流を味わうことができる内容となっている。そのような特徴のある本教材を通して、心情面に意識を向けるようになっていたり、友だちが考えた心情面を通して具体的なわけを考えるようになってほしい。そして本を読む楽しさ、宝箱をつくる楽しさに気づいていけるようにした。

二度目は、一度目の宝箱づくりを生かして一人で大好きな本を読み、宝箱をつくっていく。自分で場面を選んだりわけを考えたり想像したものを宝箱にしていく中で、こだわる力を育てていきたい。心情面に目を向け具体的なわけを考えることに関しては、児童の実態に合わせて教師がアドバイスしていくように



する。

宝箱づくり以外にも、学級文庫を充実させたり読み聞かせをしたりすることで、大好きな本を見つけられるようにしていきたい。学級文庫には子どもたちが好きな本を一冊ずつと教師のおすすめの本を用意し、「一年二組の学級文庫」という意識を持てるようにする。そして、学級文庫から選んで読み聞かせすることで、再読しやすい環境にしていきたいと考える。それでもなかなか大好きな本が見つからない児童に対しては、休み時間に一緒に図書室に行き本を探していきたいと思う。

② 知的好奇心と切実な問題について

児童は国語科の学習や朝読書を通して、いろいろな本と出会ってきた。始めは一人で読んでいたものが、友だちと読み合いっこをしたり、交換したりして読みへの興味が広がってきている。また、学習の中で読んだものを音読したり劇にしたりするなど、いろいろな表現の仕方に親しんでいる。その中で、「もっと楽しい本はないかな」、「いろいろな本を読んでみたいな」という知的好奇心が持て始めている。

その知的好奇心をもとに、本単元では「大好きな本を見つけたい」、「大好きな本の世界をこだわりを持ちながら読みたい」という切実な問題に取り組んでいきたいと考える。「大好きな本を見つけたい」については、これまでの読書経験から個人差があると思うので、上記で述べた読書環境を整える指導・支援の仕方に取り組んでいきたい。「大好きな本の世界をこだわりを持ちながら読みたい」については、宝箱をつくる活動の中で「どの場面をつくろうかな」「どんなことを書こうかな」などの問題意識が生まれてくるだろう。その問題に対し、「ただ好きだから」という理由だけでなく、物語の内容に即した具体的な理由を考え、自分なりのこだわりを持てるようにしていきたいと思う。

③ ひびき合いについて

本単元でのひびき合う姿は、「友だちの宝箱に共感し、本の世界が広がっていく」ことである。児童は一人ひとりさまざまなこだわりを持ちながら宝箱をつくる。こだわりのあるものに対しては、自然と「あ、楽しそう」、「見てみたいな」という気持ちが生まれ交流となるだろう。その児童の意識をもとに、本時では「宝箱を見せ合おう」という活動を行っていく。活動中は自由に友だちの宝箱を見合ったり話したりしてよいが、その中でお手紙付箋紙を書き感想の交流をしていきたい。お手紙付箋紙とは、友だちが書いた感想に対し返事を書くという一往復の交流形式である。この活動をすることで、感じたり思ったりしたことを具体的にすることができるとし、感想の交流も双方向で活発になると考える。また、誰かに何かを書いてもらおう、それに対して返事を書くというのは、行っていて単純に楽しいものである。

ブロックテーマでもある「他者からの刺激に対し、素直に表現する姿」を付箋紙の中から期待したい。

4 単元指導計画（全12時間+2時間）

次	学習活動	主な支援・留意点【◎評価】
一次 2時間	<p>○本単元の学習課題「大好きな本の宝箱をつくろう」の見通しをもつ。</p> <p>①お気に入りの本について交流する。</p> <p>②本の宝箱の内容、作り方を知る。</p>	<p>・読み聞かせをしたり教室環境を整えることで、大好きな本を見つけられるようにする。</p> <p>・宝箱の実物を見せることで、興味・関心を持てるようにする。</p> <p>◎お気に入りの本を友だちに伝えようとしている。 【関心・意欲・態度】</p>
二次 5時間	<p>○「ずうっと、ずっと、大すきだよ」を読み、本の宝箱をつくる。</p> <p>③「ずうっと、ずっと、大すきだよ」を読み、物語のあらすじや登場人物を確認する。</p> <p>④好きな場面を見つけ、登場人物の行動描写や心情を読み取る。</p> <p>⑤好きな場面の説明や選んだわけなどを、本カードにまとめる。</p> <p>⑥⑦好きな場面をもとに、本の宝箱をつくる。</p>	<p>・宝箱の作り方を一つひとつ確認しながら、学習を進める。</p> <p>・好きな場面を選んだ理由について、心情面に目を向けている児童を取り上げる。</p> <p>・交流については意図的に設けず、学習の中で自然と起きるもののみとする。そうすることで、三次の「見せたいな」「見たいな」という気持ちにつながるを考える。</p> <p>・宝箱をつくる楽しさを味わえるようにすることで、三次の「大好きな本の宝箱をつくりたい」という活動につながるようにしていきたい。</p> <p>◎興味を持ちながら、宝箱をつくろうとしている。 【関心・意欲・態度】</p> <p>◎人物の行動描写や会話を基に場面を想像しながら宝箱をつくっている。 【読む】</p>
三次 5時間	<p>○大好きな本の宝箱をつくり、友だちと見合う。</p> <p>⑧⑨大好きな本の紹介したい場面や選んだわけなどを、本カードにまとめる。</p> <p>⑩⑪大好きな本の宝箱をつくる。</p> <p>⑫宝箱を見合い、感想を交流し合う。(本時)</p>	<p>・行動面から考えた単純なわけ（面白いなど）でなく、心情面にも目を向けさせることで具体的なわけを考えられるようにする。</p> <p>・図工の時間と連携することで、こだわりのある宝箱をつくっていけるようにする。</p> <p>・付箋紙を活用することで交流を活発にできるようにする。</p> <p>◎大好きな本を見つけ、進んで宝箱をつくろうとしている。 【関心・意欲・態度】</p> <p>◎人物の行動描写や会話を基に場面を想像しながら宝箱をつくっている。 【読む】</p> <p>◎宝箱を見合う中で、本についての自分の思いを紹介している。 【書く】</p>

並行して読み聞かせ・読書（校内読書週間も活用）

5 単元構想

単元目標: ・本を紹介する活動を通して、お気に入りの本を見つけたり本に対しての自分の思いを持ったりすることができる。

大好きなお話はあるかな。

- ・ももたろう。シンデレラ。(むかしばなし)
- ・おむすびころりん。くじらぐも。(学習したお話)
- ・あらしのよるに。ぐりとぐら。(その他)
- ・好きなお話、ないなあ…。



「本の宝箱」を紹介する。

- ・すごい。すてき。
- ・お話のことが、よくわかるね。
- ・先生はそのお話が、本当に好きなんだね。

教師が好きなお話を紹介することで、本の宝箱のイメージを持たせる。

大好きな本の宝箱をつくらう

◎どうやって、宝箱を作ればいいのか。

「ずうっと、ずっと、大すきだよ」でつくってみよう。

★宝箱には何が必要か、考えよう。

- ・お話の題名、好きな場面を書こう。
- ・どうして好きなのか、説明があるといいな。
- ・登場人物の説明をしよう。絵があるといいな。

★一人読みをして、自分が一番好きな場面を宝箱にしよう。

- ・ぼくとエルフが仲良く遊んでいるところがすきだな。
- ・ぼくがエルフのお世話をしているのが、いいな。
- ・エルフがなくなっちゃうところが、かなしいけど好きだな。

◎宝箱が完成したよ。

- ・本カードに書いたよう、エルフを枕にして寝ている仲良しの場面ができたよ。
- ・選んだ場面を考えて宝箱にするのって、楽しいな。
- ・友だちはどの場面を選んだのかな。どんな宝箱になったのかな。

◎お気に入りの本が、なかなか見つからないよ。

- ・友だちの読書カードを見てみよう。
- ・読み聞かせしてもらった中から選ぼう。
- ・コスモスに行ってみよう。

大好きな本が見つかるよう、読み聞かせをしたり教室環境を整えたりする。

宝箱づくりの中で工夫したこと(本カードの表紙に大事な言葉を書くなど)は、取り上げたり掲示したりすることで共有し合えるようにする。

「ずうっと、ずっと、大すきだよ」の宝箱づくりを通して、「作ってよかったな」「またつくりたいな」という思いを持てるよう支援していく。具体的には、自分が好きな場面を宝箱で表現できたという楽しさや満足感を味わわせること、そして教師が子どもの宝箱のよいところを褒め認めることである。

◎宝箱を作るのは楽しいな。自分が大好きな本で、宝箱をつくりたいな。

自分が大好きな本で、宝箱をつくらう。

- ・お話の題名、好きな場面、選んだわけ、登場人物の説明、絵があるといいだったな。他に、素敵な宝箱にするにはどうしたらいいだろう。
- ・絵を大きくしよう。
- ・わけは、具体的に書くとよかったんだな。
- ・宝箱に、お話に関係する飾りを付けよう。
- ・いい宝箱になってきたよ。友だちは、どんなもの、つくっているのかな。
- ・この本は、本当に面白いんだよな。あぁ、宝箱を見せて知ってほしいな。

お互いの大好きな本を自由に読めるよう、教室に「大好きな本コーナー」をつくる。そうすることで宝箱を見せ合う際、宝箱の形や飾りではなく内容に関する感想交流ができるようになる。

経験した宝箱づくりの仕方を生かして、自分一人で「大好きな宝箱」をつくらうようにする。ただ、場面を選んだ「わけ」に関しては、本に対する思いが表現できるよう具体的なものになるよう、支援していく。

「ずうっと、ずっと、大すきだよ」の宝箱づくりでは、敢えて交流をしないで(子どもたちが自然と見合うことは構わない)ことで、「見せたいな」「見たいな」という気持ちがより大きくなるようにする。

◎やったあ。宝箱が完成したよ。早く友だちに見せたいな。

大好きな本の宝箱を、見せ合おう。(本時)

- ・ももたろうに続きの話があるなんて知らなかった。鬼の孫と仲良くするなんて、面白いな。(交流中のつぶやき)
- ・大きな箱で作ったんだね。それだったら、くじらぐもも入れるよね。(お手紙に書かれた感想)
- ・お手紙に、「〇〇さんは最後に舞踏会で踊るところが好きなんだね。私はガラスの靴をなくしてしまうところがドキドキして好き。」と書いてありました。同じようにシンデレラが好きな人がいて嬉しかったです。(全体の場での感想交流)

宝箱を自由に見せ合えるようにし、お手紙付箋(感想を書いて友だちに渡し、読んだ友だちが返事を書くという一往復の交流形式)に感想を書いて各人のワークシートに貼っていくようにする。そうすることで、自然な中で主体的に感想を交流していきると考える。個人での交流が終わった後、全体の場でどんな感想が書いてあったのか交流し合うことで、「私もそう思った」「それ読んでみたいな」などという共感の輪を広げていけるようにしたい。

◎大好きな本が、もっと好きになったな。新しい好きな本が、見つかったな。

6 本時案（別紙）

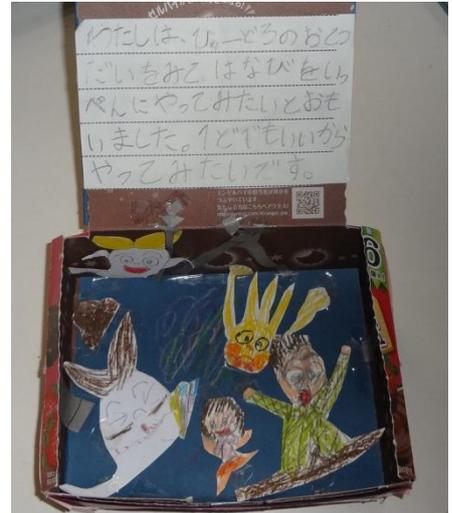
7 実践を終えて

(1) 単元構想から単元終了までの流れについて

本単元では、始めに「ずうっと、ずっと、大すきだよ」を読んで宝箱をつくる活動を通して、「自分の大好きな本でも宝箱をつくりたい」という意欲につながる構想で学習を進めた。実際、「ずうっと、ずっと、大すきだよ」の宝箱づくりは、自分で選んだ場面をもとに楽しく取り組んでおり、「他の本でも宝箱をつくりたい」という気持ちを抱くことができていた。ただ、大好きな本がないという児童が予想以上に多かったため、図書室の利用を増やしてじっくり本と向き合う時間を確保した。また、おすすめの本カードを交流しながら本探しをすることで、今まで読まなかった本にも出会えていたようである。

大好きな宝箱を作る活動では、好きな場面を選んだわけについて細かな個別指導を行った。「ずうっと、ずっと、大すきだよ」の宝箱づくりで場面を選んだわけについて交流し、内容に即した具体的な理由を持つことが大切であることは学習したが、一人だけで内容を読み取ることは難しかったようである。「楽しいから」「面白いから」「こわいから」など、単純な気持ちの感想のみで場面を選んでいる児童が何人もいた。個別指導では、「どうしてその場面を選んだのか」「どうしてそう思ったのか」など話しかけたり、一緒に本を読んだりして注目する部分を確認した。また、そのわけをもとに宝箱に具体物（背景や登場人物、その様子など）を付け加えていった。

本時の「お手紙付箋紙交流」は、どの子も進んで取り組み何枚も手紙交換をすることができていた。熱心に活動しており時間内に終わらなかったため、次時も同内容の続きを行った。「ぼくもその本読んだことがある」「わたしも読んでみたい」など共感している感想がいくつもあり、本の世界が広がったように感じる。そのため、手紙交換を終えた後に、本の貸し合いっこや図書室を利用を進んで行っていた。



(2) 成果と課題

- ・大好きな本を宝箱にすることで、本に対しての愛着をより持つことができた。また、おすすめのカードや宝箱を交流することで、今まで知らなかった本の魅力を見つけることができ、「大好きな本を見つけた」というせつじつな問題を抱きながら学習を進めることができた。
- ・今回の学習では、二度宝箱づくりを行った。一度目で宝箱の作り方を知ること、宝箱を作りたいという意欲を持ったことで、二度目の「大好きな本」の宝箱づくりは進んで行うことができていた。ただ、大好きな本について、個人のみで物語の内容に即した具体的なわけを考えることは、難しかったようである。本を読む時間を確保したり環境を整えたりすることで、確かに「本を読んで宝箱にしたい」というせつじつさを持つことはできていた。しかし、一人で物語を読む力（例えば誰が主人公で、どういう展開で、どういつ結末なのかを行動や様子をもとに読み取るなど）が十分に育っていなかったため具体的なわけを考えることができず、故に「こだわりを持ちながら読みたい」というせつじつな問題を抱きながら学習を進めることができない児童が多かった。今回は、一人で一つの宝箱をつくるという形にしたが、大好きな本が同じであればグループで宝箱づくりに取り組んだり、同じジャンルやシリーズの本については作る過程でより交流していけるような環境作りをしていくことも大切であると感じた。
- ・感想の交流を手紙形式にすることで双方向に気持ちを伝え合うことができ、共感を広げることができていた。しかし、「ひびき合い」に関しては課題が残る。他の人が選んだ本について内容を知らない事を想定し、読書コーナーを設け選んだ本を自由に読み合えるようにしたが、興味を持って読んでいる児童は少なかった（手紙付箋紙での感想交流をし終わった後は、読む子が増えた）。それ故、感想交流も「おもしろそう」「読んでみたいな」などの共感にとどまり、宝箱づくりを通して深めた思考（選んだわけとそれをもとにつくった宝箱の工夫）をひびき合うまでには至らなかった。